

特別支援学校の取組

～ 生徒理解研修について ～

生徒理解研修の実施（年2回）

第1回
6月

対象生徒の課題に対する目標と手立てについて検討

対応に困っている生徒を各学年から抽出（11人）
・6～10名ほどのグループに対して生徒1人
・グループメンバーは生徒をよく知る教員が基本

第2回
1月

1回目に立てた目標と手立てについて評価
並びに、今後の対応についての検討

1回目と同じメンバーで実施



実践の成果と課題

普段接することの少ない職員と話し合うことで、生徒の知らない一面が知れたり、
一人では思いつかなかった知見が得られた。

昨年度は手立てを考えて終了だったが、改めて実践の評価をすることで深まりが出た。

R-PDCAサイクルによる実態把握と支援の基本について全体に伝えることができた。

ファシリテーション力によらずとも話し合いが円滑に進むようなやり方について検討が必要。

グループ外の職員と、課題と手立ての共有がまばらになり、対応が職員によってまちまちになってしまった。確実な共有方法について検討が必要。

ごちらの「困っている」が先に立ってしまい、生徒の思いについてもう少し考える時間をとるべきだった。

適切な時期での研修時間の確保が困難。

実践から学んだこと

1人で抱え込まず、
情報や意見を共有すること（協働）の大切さ

R P D C A サイクルによる
実態把握 目標と 実践 評価 再実行
手立ての設定
サイクルによる
実態把握の大切さ

今後に向けて

R-PDCAサイクルによる生徒理解研修を

校内だけではなく、校外の先生方にも広げたい！

通常学級勤務の先生方に、
特別支援教育の基本を知ってもらいたい

たくさんの先生方が集い、
それぞれの知識・経験を共有する場を設けたい

地域支援づくりへの提案

アセスメント方法の研修＋
外部参加の先生方も交えたロールプレイの実施

タテヨコの連携を強め、
地域との「協働」への第一歩！